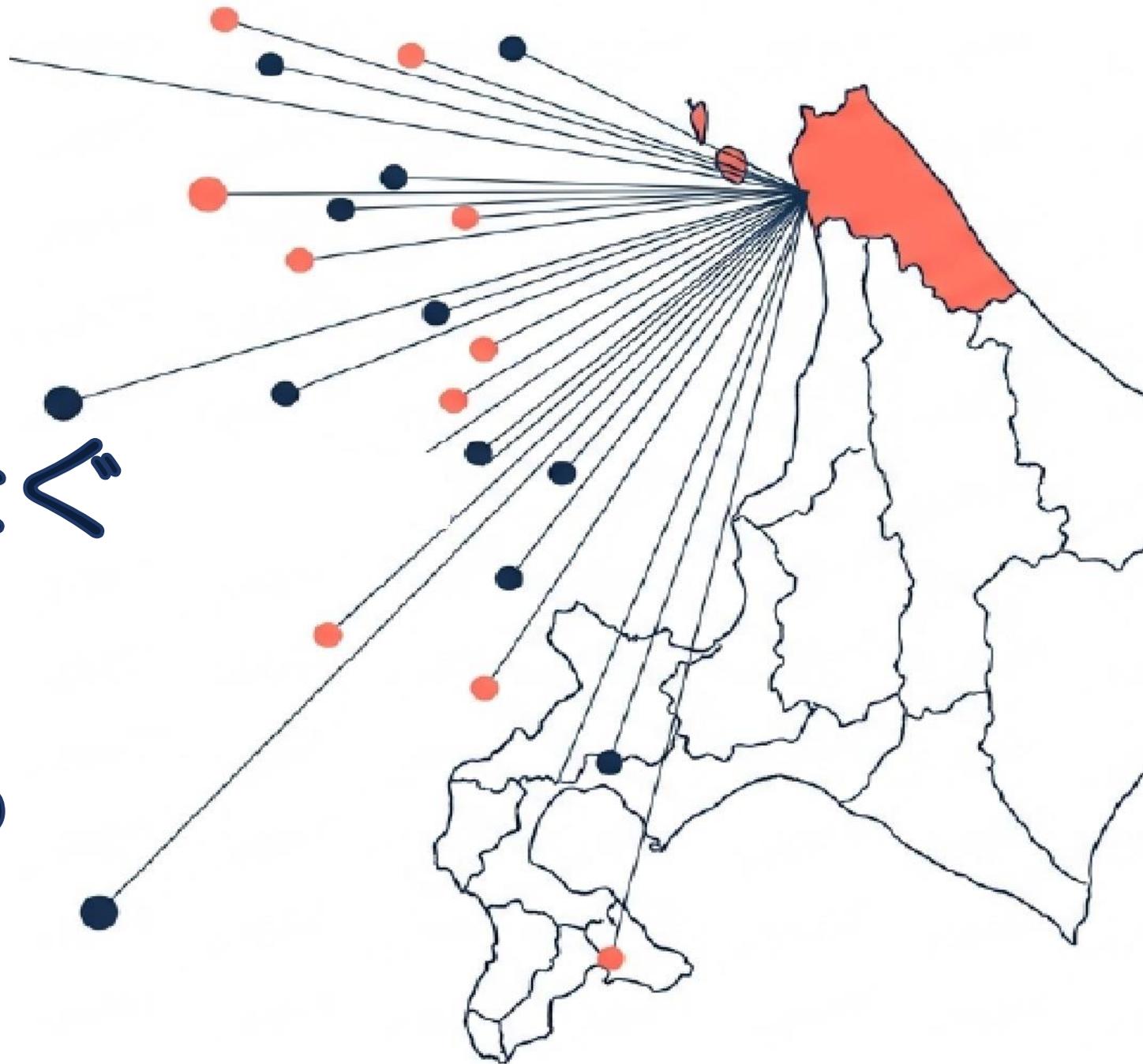


宗谷の現在地：
人と人をつなぐ
「オモシロい」
社会教育を探る



課題の整理

現場の声：

- 「人員不足」と「膨大な業務量」による疲弊
- 「新たな企画、実践ができない」停滞感
- 「社会教育関係団体数・構成員数の減少」
という地域の衰退



従来通りのやり方では、活動は縮小し疲弊する一方
現状を打破するための「新しい視点」が必要

仮説：地域の可能性を引き出す「2つの鍵」

1. 人と人をつなぐ

- 個人的な学習に留まらず、新たな人間関係を構築すること
- 広義には「まちづくり」に寄与する発展性を持たせること

2. オモシロい

- 単なる「楽しさ」ではない
- 人の興味・関心・注目を集める「求心力」を持つこと

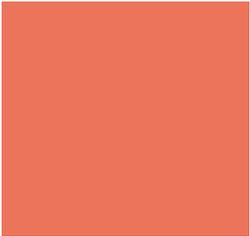
この2点を達成する事業が、地域の可能性を引き出すのでは？

宗谷管内社会教育主事会 研修会



1. まずは互いの取り組みを知ろう

- それぞれのまちの社会教育事業の紹介
- 悩みや疑問を正直に共有



2. 「違い」を見つけて新たな問いへ

- 事例発表で気になった点を深掘り
- 良い所や自分たちのまちに取り入れたいことを話す

事例発表① 学びの継続とマンネリ化

A町 高齢者向けの学習機会提供

- 60歳以上が入学可
- 年間10回の講座を開講
- 特別講座として研修旅行



- 新規入学生の減少
- 講座内容の選定に苦慮
- 研修旅行の行先が枯渇



事例発表② 小さな仕掛けとその効果

B町 町内の子どもたちが集まる会議にて



◀ ▲会場内を装飾し、話しやすい雰囲気づくりを
(10月だったのでハロウィン仕様)

▲▶グループ協議の内容を模造紙にまとめ、他のグループの参加者がシールを貼ってリアクション

グループ協議① 理想と現実のギャップ

社会教育主事は
専門職か、
何でも屋か？

教育委員会に頼りきり
VS
住民自治

建前ではない
「本音」の議論

文化協会の高齢化...
若者がいない

活動の引き際を
どうするか？
(幕引きかテコ入れか)

グループ協議②

「人」に依存する脆弱性



- 「ワンオペ」の常態化：
担当者が倒れたら事業が止まる
- 記憶への依存：マニュアル不在、
ベテランの経験則頼み
- 新規参入の壁：正解がなく、
成果が見えにくい

仮説：子どもを軸に人と人とが繋がれないか



- 単純に趣味として楽しんでいる
個人や団体（サークル）

- 子どもも参加できるイベントを開催
体験コーナー等で一緒に取り組む



◀ 邪道と言われそうですが、色々なサークルの発表会、体験会でスタンプラリーを実施。子ども用にお菓子の詰め放題を景品としたところ、客層がガラッと入れ替わり……

仮説：子どもを軸にしたサイクル



整理①：過去の事例発表（R5）

釧路町 「釧路町大好きっ子を育成する大人のふるさと教育」

「子どものため」をきっかけとした



- ・ 誘いやすく、参画しやすい
- ・ 生きがいを感じやすい



- ・ ただのお手伝いさんで終わる可能性も
- ・ 保護者の参画が難しい

釧路町大好きっ子を育成する大人のふるさと教育



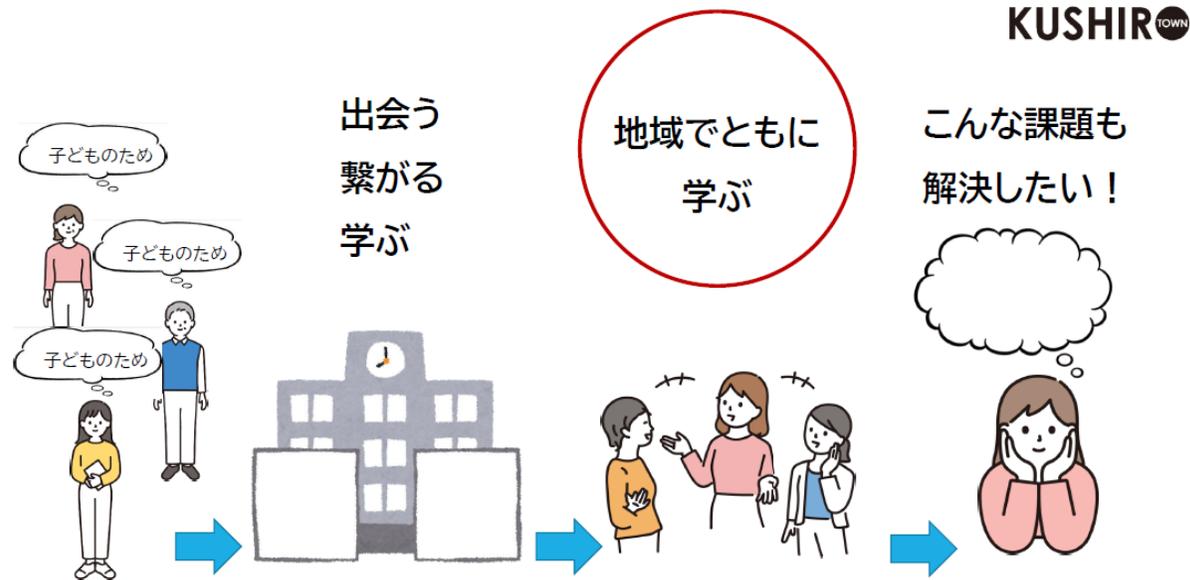
- ・ 身近な地域の「ひと・もの・こと」を学べる
- ・ 共に学び続ける仲間と出会う



- ・ 学んだ成果の活用、活躍の場
- ・ ふるさとを知って、意識の変容

- ・ 大人の自身が釧路町の優れた「ひと」
- ・ 学びの主体は誰か、自分自身の成長

KUSHIRO TOWN



釧路町大好きっ子を育成する大人のふるさと教育

釧路町大好きっ子を育成する大人のふるさと教育

整理②：過去の事例発表（R5）

秩父別町 「高齢者の人材活用から見た異世代交流の学び」

まとめ

見つめなおす

高齢者 = 単純に支えられる人...と一律にとらえるではなく

多様な経験・知恵を持った社会の支え手・担い手

理想像

高齢者が主体（担い手）となった活動が続いていく

自走

定番の活動・行事

必要な要素

喜び・楽しさ

やりがい

まとめ

なにによってもたらされる？

喜び・楽しさ

やりがい

それは...

刺激

いつもと違う状況を
設定する
(例 異年代交流)

多様な経験・知恵の
活用ができる場を
設定する

◦ “ハレ”のシチュエーション

◦ 社会参加・社会貢献の実感

コーディネート能力

そのためには...

明確なねらいを持って

人と人・人と活動・活動と活動を

つなげる

地域のよさ・課題
地域の人・活動
(常に情報を更新)

普段から...

地域を知るアンテナを張っておく
地域の人と関係性をきずいておく

高齢者の経験・知恵によって
他世代の学びが深まり
それによって高齢者自身も
新たに発見し学び
そんな円環が
ひととまちを育てる

整理③：子どもを軸に…の整理

“子どものため”を強調しない

- 子どもの成長のため＝専門性が必要と思われないため
- 出発点は自分たちの利益
(学んで楽しい、好きでやっている)



◀ヒューマンビートボックスを教えている様子。
大人が中心に教えているものの、高校生らも手伝って教えていた。

世代に拘らない

- 高齢者が若年層と関わる意義はこれまで言われているとおり
- 子どもが子どもに教えるでも良い

整理④：“ハレ”のシチュエーション (参考：秩父別町)

非日常的な出会い

- 日常では関わらない人と一緒に何かをするシチュエーション

非日常的な空間

- 装飾、BGM、匂いなど、いつもと違うシチュエーション

非日常的な体験

- 自ら積極的に取り組んだことのない分野を体験できるシチュエーション

非日常的な達成感

- (子どもから) 感謝の言葉、参加者の笑顔などが見られるシチュエーション

今後の展開：



研修会を開催（3月）

- 企画、計画に関わる内容
- 今後事業を精査し、必要な事業を展開していくための土台に



管内での仲間づくり

- 研修会等を通じて、管内の職員同士のつながり

※令和8年度は社教委員の全道大会、道北地区の研修など……



各自治体での実践

- 次年度以降各自治体で取り組み、成果や課題を共有する

ご清聴ありがとうございました

